

**第42回全国少年少女躰道優勝大会
第39回全国高校生躰道優勝大会実施における
新型コロナウイルス感染防止等による基本方針**

2021/7/15 現在

上記の大会を開催するにあたり、実行委員会では下記内容の新型コロナウイルス感染防止対策を講じさせていただきます。

大会中や大会後に発症者が出た場合、関係者の健康や感染拡大を防止するため「濃厚接触者」(感染確率が高く、役所から認定された場合は14日間の隔離を余儀なくされる)を作らないよう運営していく所存です。

※濃厚接触者とは(厚労省HP)

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離(1m程度以内)で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。

※感染予防策とは、三密の回避・マスク着用・消毒などがあたります。

ご理解の上、遵守いただきますようお願い申し上げます。

尚、今後の感染状況や様々な情報を元に、基本方針を変更する場合があります。

■ **2週間前～当日対応：**

- ・ **各県地区にて**来場者の決定を行う
- ・ 来場者(選手/観客/役員/審判/指導者/来賓)は大会2週間前7/25(日)から体温チェック・健康チェックを行う
- ・ 選手は大会2週間前より躰道の対外稽古を禁止する
- ・ 出場選手全員が**大会7日前～大会前日まで**(事前に検査キットを各自購入)の期間に、最低1回のPCR検査を実施し、申込団体責任者へ報告する(費用は自己負担、実行委員会より検査キットの紹介あり)
- ・ 審判・役員・来賓・**指導者(各県地区引率2名まで)**についても**大会7日前～大会前日までの期間にPCR検査を実施し、陰性であることを確認する**
尚、観客のPCR検査の実施は不要とする
- ・ 来場者は大会当日の朝に個別にGoogle formsへ所定の質問に回答し送信する
実行委員会はこちらをもとに来場者全員の名簿(名前・連絡先)を作成し、入館チェックを行う(GoogleアカウントなしでもOKの設定) ※詳細は改めてご連絡致します。

■入館時対応：

- ・上記の2週間前対応を遵守した者のみ、入館を許可する
- ・飛び込み入館は不可とする
- ・大会会場へ集合後に、会場係が来場者リストの照会、体温チェックと手のアルコール消毒を実施する。その際、37.5℃もしくは体調不良の選手は入館不可とする（濃厚接触者も不可）
- ・選手と観客の入館口を分ける（選手：1階正面口 観客：2階観客席連絡口）
- ・選手観客ともに、それぞれの入館口から、各県地区ごとに時間差を設けて入館する

■ 時程対応：

- ・選手は、マスクを常時着用とする（競技中、練習、観戦、コート整列時など含む）
- ・開会式は簡易的に行い、出場選手は観客席から参加とする
- ・閉会式は行わず、各コートでメダルを授与する。賞状については、後日郵送とする
- ・各コートの結果は、競技終了後すみやかに会場内にアナウンスを行う
- ・負けて試合がなくなった選手や団体は、大会の途中であっても**帰宅を推奨する**

■ 会場対応：

- ・審判、役員・指導者、観客はマスクを常時着用とする
- ・1階競技場への指導者の人数制限を行う
（各県地区から2名まで、ネックストラップ着用）
- ・応援は声援を禁止し、拍手のみとする
- ・観客席の各県地区の着席エリア設定、エリア内のSD確保を行う

■ 試合前後対応

- ・選手待機場所の設定（各県地区へ事前に詳細を連絡）
- ・水分補給場所の設定（各県地区へ事前に詳細を連絡）
- ・試合後の選手の手の消毒を実施
- ・競技終了ごとにコートの消毒を実施

■ 競技中：

- ・選手の競技中のマスク着用を徹底
- ・全ての競技において、気合いの発声は大きな声を控えること
但し、審判員は気合いについての評価は行わない
- ・マスクの着用のため、実戦の競技時間を30秒短縮する
- ・選手係は選手の呼び出しを行わない。次試合・次々試合の選手待機場所を設定し、間違いがないよう選手係りがチェックする。

- ・選手係の選手呼び出しを行わない代わりに選手確認方法として、少年少女大会に出場する選手は、躰道着の背面部に、所属する都道府県地区名と名前が入ったゼッケンを必ず付けることとする

(例)

〇〇県 躰道太郎

- ・発声ありの礼法は行わない
- ・対戦後の握手は行わない
- ・赤帯は各県地区で用意し、尚且つ共有もしないこと。

■ 審判対応：

- ・審判は常時マスクを着用すること
- ・実戦時は電子ホイッスルを使用すること
尚且つ電子ホイッスルは審判同士で共有しないこと(日本躰道協会が用意します)
- ・法形時、判定の旗は個人持ちとし、審判同士で共有しないこと(日本躰道協会が用意します)

■ 来場者規制：

- ・来場者数の制限は行わない(500名を想定、会場の広さから三密には該当しない)
- ・基礎疾患をお持ちの方や年齢60歳以上の方は、たとえ元気でも入館を規制する
尚、厚労省HP (<https://www.mhlw.go.jp/content/000788485.pdf>) の情報によると、30歳代と比較した場合の各年代の重症者率では、50歳代で10倍、60歳代で25倍、70歳代で47倍、80歳代で71倍。

■ その他

- ・昼食中のSDと私語の禁止を徹底、昼食は各自車内にて済ますこと
車内での昼食が不可能な場合のみ、観客席を使用する
- ・各団体の交通手段の分散を推奨(体調不良があれば濃厚接触者となり出場不可となる)
- ・試合中、全コートでLive配信を行う
- ・大会当日はメダルの授与のみとし、賞状は後日郵送とする
予選から決勝までを一度に行い、競技終了後に競技コートにて審判よりメダルを授与する
- ・競技役員や本部役員の人数を徹底的に減らし、簡易的な運営方法を構築する
- ・実戦時の面ピット、胴プロテクターは個人持ちとし、各県地区内でも共有しないことを推奨する

- ・三密を避けるため、会場内での競技結果の掲示は行わない(ネットの即時アップのみ)
- ・~~前日の会場練習は事前申込み制とし、19:00-20:30を解放時間とする~~
- ・観客席の消毒は各自で対応して頂く。ただし、アルコールボトルは主催者で用意する
- ・PCR 検査の検査結果は、申込み団体責任者が確認する。また、入館者の Google forms を通じた体調確認へも PCR 検査の陰性確認の項目を作成する
- ・マスクの種類については、個人差があるため指定は行わない。但し、マスクの代替としてのフェイスシールドの使用は禁止する
- ・マスクは必要に応じて、適宜交換すること
- ・ワクチン接種者であっても、変異株の観点から PCR 検査は実施していただく
- ・大会中に発熱者などが出た場合に備え、実行委員会では開催地付近の PCR やランプ法での検査が出来る病院を確認しておく。